

報道機関 各位

2021年1月7日

## 2021年 JIRA 会長 年頭所感

一般社団法人 日本画像医療システム工業会  
会長 山本 章雄

新年、明けましておめでとうございます。

2021年の年頭に当たり、当工業会の会長としての所感を述べさせていただきます。

2020年1月、日本で最初の新型コロナウイルスの感染例が確認されてから1年が経過しようとしています。昨年は、医療関係者を筆頭に社会全体として新たな感染症による脅威に立ち向かった1年となりました。医療関係者の皆様には改めて感謝と敬意を表したいと思います。

2021年を迎えるにあたり、JIRAは2021年をデジタル変革の年と捉え、ニューノーマル時代の新たな価値提供の実現をめざします。

### == ふりかえり ==

#### ◆ コロナ禍で明らかとなった日本の課題

私たちは新型コロナによって、様々な経済・社会課題をあらためて認識することとなりました。

例えば医療では、陽性者情報や地域の病床・個人防護具の過不足などの情報収集を当初電話やFAX等で行ってまいりました。

また、給付金や補助金の手続き、学校の臨時休業、私たち企業においてもオンラインの活用にあたって、インフラや業務フローや規則に色々と制約・不自由がございました。

こうしたなか、日本政府においても、デジタル庁の新設にむけた動きなど「コロナ禍で顕在化した課題への対応として、多様な分野でデジタル施策の展開」を強く推し進めており、医療の分野においてもデータヘルス改革をはじめ、デジタル化が加速していきます。

#### ◆ 2040年を展望した日本の課題と政策

社会保障の分野では、厚生労働省が日本の「2040年を展望した社会保障について」課題と施策を取り纏めております。

就労人口は2025年の6350万人から5650万人へ2割近く減り、一方、医療介護分野の就労者の需要は930万人から1060万人へと1割近く増えています。

働く人が減っていく中で、どうやって2040年を乗り切っていくか、その政府の施策よりは健康寿命の延伸と、医療・福祉サービス改革です。このなかでもタスクシフティングと併せ、AIやICTなどデジタルの実用化推進を掲げております。

また、2024年4月からは医師の働き方改革により残業時間の規制もはじまり、医療現場の業務効率化は喫緊の課題となっております。

### == 2021年にあたって ==

#### ◆ ニューノーマル時代の新たな価値提供

JIRAは、2019年4月にJIRA産業ビジョン2025を策定し発表いたしました。前新延会長のリードにより、日本の健康・医療や医療機器産業界などの現況を確認し、画像医療システム産業の社会的価値や当工業会

の使命を確認し、JIRA 内外の関係する方々のご意見やご期待を受け、画像医療システム産業が 2025 年に目指す姿を策定したものであります。

JIRA 産業ビジョン 2025 で、私たちのめざす方向は変わりませんが、2021 年の JIRA の取組として、コロナ禍による社会の変化から、ニューノーマル時代の新たな価値提供をめざし、4 つの重点項目を設定しました。

- ◆ DX(Digital Transformation)の拡大
- ◆ 医療従事者の業務効率向上への貢献
- ◆ 感染防止対策の啓発
- ◆ 会員企業の環境変化に伴う共通課題への支援(製品プロモーション、人材育成等)

#### ◆ DX(Digital Transformation)の拡大、医療従事者の業務効率向上への貢献

DXを支えるAIやビッグデータなど、新たな技術は医療分野での応用も数多く開発が進んでいます。

2024年からはじまる医師の働き方改革、そして2040年にむけての医療介護分野の労働需給ギャップにおいても、健康寿命の延伸や医療福祉サービス改革の実現のためにも、デジタルにかかる期待は大きなものとなっております。

AIやビッグデータなど新しい技術により、医療現場の負担軽減、医療の質の向上や均てん化、また早期診断・治療を通じた重症化予防への貢献が期待されています。

画像診断ではAIの活用が進んでおりますが、応用分野は画像の高精細化や撮像時間の短縮、臓器のセグメンテーションや診断支援、ワークフローの改善、さらには手術計画やナビゲーション、ラジオミクスなど様々な研究・開発が進められています。

一方でDXの拡大実装にむけた課題もあります。新しい技術が産業として活性化していくための環境整備が重要となってまいります。

JIRAでは診療報酬評価、個人情報保護、サイバーセキュリティ、承認認証制度への取組アクションを進めておりますが、デジタル医療機器の特性にあった承認認証制度につきまして、昨年12月9日に厚生省より運用通知が発出されるに至りました。

昨年、新延前会長より年頭記者会見でご紹介させていただいた取り組みに大きな成果がありましたのでご報告させていただきます。

画像診断機器ではデジタル技術が多く実装されています。私たちJIRAは2019年7月の厚生労働省との定期意見交換会において、新たな機能を開発、追加した場合に、速やかな認可が得られる制度改善を要望いたしました。その後、行政・業界で検討を進めたことにより、昨年12月9日に通知の発出をいただくことができました。

画像診断機器は買い替え年数が平均で10年を超えておりますが、今回の通知これにより購入いただいた後も認証範囲を超えた機能追加をする場合、追加部分の承認審査を受け、迅速に医療現場にお届けできることが期待されます。

医療現場の業務効率化をご支援するDXの拡大実装にむけ、各社が新技術の開発をすすめ、改善改良医療機器をいち早く医療現場へお届けすることを期待しております。

#### ◆ 感染防止対策の啓発

JIRAでは2016年に感染症対策ワーキンググループを発足させました。その後、日本診療放射線技師会と連携し、JIRA会員企業にむけた感染防止対策の啓発活動を重ねてまいりました。

新型コロナの発生後、JIRAは会員企業へ、感染対策情報の発信を続けるとともに、JIRAの部会・委員会活動をオンライン化、また医療機関へ医療機器の安定供給・安定稼働を継続するため、行政と連携し、会員企業のマスクやガウン等の个人防护具の確保を支援してまいりました。

また、昨年11月から医機連に発足しました感染防止対策策定ワーキンググループに参画し、販売業・修理業

事業者の医療機関訪問にあたってのガイドライン策定に向け始動しております。

#### ◆ 会員企業の環境変化に伴う共通課題への支援

会員企業の皆さんと会話をしておりますと、団塊の世代の退職など社員構成の変化、また他業界からの参入や、そして今回の新型コロナウイルス感染症拡大によるリモートや直行直帰といった働き方などの変化によって、さまざまお悩みの声を頂戴します。

JIRAとしてはまず製品プロモーションと人材育成の面で会員企業に貢献したいと思います。

製品プロモーションでは、コロナ禍で FaceToFace のプロモーションができないので WEB 化すると言うのではではなく、リアル/WEB のそれぞれの優位性を生かした展示会の企画を追求してまいります。

さらに、ひとつの企業ではやりにくいプロモーションでも、JIRA が運営することによって多くの企業に参加できる、JIRA が場を設定するような展示会企画を推進していきます。

また、JIRA は、T-con やビデオ配信等の活用を JIRA 活動全体へ展開しています。

これらの利便性を生かしたセミナーを開催し、遠方の企業、中小企業、スタートアップ、ベンチャー企業等の人材育成を支援したいと考えています。

さらに、行政・アカデミアへの提言、そして国際会議の場でも通用するスペシャリストの育成にも力を入れていきたいと思っております。

#### == DITTA 議長 ==

2021 年のトピックスとして、JIRA は 2021 年 1 月から 2 年間、国際画像診断・医療 IT・放射線治療機器産業連合会:DITTA の議長をつとめます。

これまで JIRA は「医療機器の単一審査 (Medical Device Single Review)」、「規制当局者への IMDRF 成果の教育プログラム」の推進を提唱してまいりましたが、今後は議長として、これら推進活動を更に強化してまいります。

日本行政とも連携を取りながら、国際整合の実現に向けてグローバルな工業会として DITTA をリードし、国際医療機器規制当局フォーラム:IMDRF への提言をしてまいります。

最後になりますが、JIRA といたしましてはリアルの場合、そしてデジタルを活用したオンラインの場合であっても、今まで以上に関係者の方々と密に、連携して活動してまいりたいと思っております。

今後とも更なるご協力と、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。  
皆様のご健勝とご多幸を祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

以上

# 2025 年 画像医療システム産業がめざすビジョン

人口構成の急激な変化により超高齢社会へと社会構造が大きく変化し、顕在化している社会保障費の増大、生産年齢人口の減少等の課題解決が、国を上げて取り組まれている。

政府は、健康寿命の延伸、人生 100 年時代、働き方改革といったテーマを掲げ、団塊の世代が後期高齢者（75 歳以上）に達する 2025 年問題に向けて社会保障等の改革を進めるとともに、団塊ジュニア世代が高齢者となる 2040 年を見据えた具体的な施策の検討も進めている。

また、高齢化は世界各国で同様に進んでおり、政治、経済等の情勢も変化している。

こうした状況を踏まえ、2013 年に策定し進めてきた「JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2020」を、2019 年 4 月に「JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2025」として改定した。

## JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2025

### 第 1 のビジョン

#### 社会の変化に先駆けた世界をリードする医療イノベーションを実現する。

- 社会の動向（少子高齢、個別化医療等）にマッチした高精度・高機能、低侵襲の画像診断・治療等の技術探求と創造により、以下を実現する。
  - ◆ 予防・診断・治療の連携強化と、早期診断・低侵襲治療による健康寿命の延伸
  - ◆ 新たな医療産業分野と連動した画像医療システム産業の強化・拡大

### 第 2 のビジョン

#### 革新的なデジタル技術の活用により、医療の質向上と医療機器産業拡大に貢献する。

- 画像医療システム産業への AI、医療 IoT、医療ビッグデータ、次世代通信技術等の活用促進により、以下に貢献する。
  - ◆ 臨床価値の創出と診断支援技術の拡大、診断と治療の連動、医療の効率化
  - ◆ 遠隔医療、地域包括連携、予防、在宅等の関連産業創出

### 第 3 のビジョン

#### 日本の優れた医療、医療システムを世界に提供し貢献する。

- 画像医療システム・サービスの国際展開に必要な国際整合、地域別規制対応により、以下をめざす。
  - ◆ 日本の医療システムの海外展開の加速による世界の医療への貢献
  - ◆ 医療機器および関連産業の輸出拡大

### 第 4 のビジョン

#### 社会・自然環境の変化に適応したシステムの提供により、安全・安心で安定した医療を実現する。

- エネルギー問題、サイバー攻撃、自然災害、就労人口変化等に適応した画像医療システムの開発促進により、以下をめざす。
  - ◆ 優れた環境性能（省エネ、小型、ユーザビリティ等）を持ち、緊急時も持続可能な医療の提供
  - ◆ 医療ネットワーク上の脅威に耐えうるサイバーセキュリティの確保